

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079100154		
法人名	有限会社ライフ企画		
事業所名	グループホームなのはな	ユニット名	
所在地	福岡県みやま市高田町黒崎開697-1		
自己評価作成日	平成29年6月20日	評価結果市町村受理日	平成29年8月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成29年8月1日	評価確定日	平成29年8月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム『なのはな』は、高田町西部の田園風景に囲まれた所にあり、自然に恵まれている。ホームはオープンテラスとなっており、そこにある木製のベンチに、ご利用様が座られて日向ぼっこされたり、苑外散歩にお連れし、近所の方とも顔見知りになっている。毎月、ボランティアの方々が来苑して下さり、ご利用者様も楽しみにされている。職員は、ご利用者様が思いのまま過ごせるように、その方のペースに合わせた支援を心がけ、穏やかな時間を一緒に過ごしている。代表は、「職員を大切に」と常日頃言っており、管理者もその気持ちを第一におもっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームなのはな”は、社長と管理者が地元の方で、いつも支えて下さる地域の方に感謝の気持ちを持って連携を深めている。小中学生やボランティアの方も来て下さり、家族の紹介でプロのフォークソング歌手の方がホームで歌って下さるなど、楽しい時間が作られている。避難訓練にも家族と地域の方が参加して下さり、消火器を使用しての消火体験に参加して下さった。日々の生活では、ご利用者と一緒に体操をしたり、歌を唄ったり、塗り絵や貼り絵等をされており、毎月のカレンダー作りも恒例で、往診日や誕生日、行事等も書き込まれ、ご利用者と一緒に行事等を共有されている。ご利用者の入院時には付き添い、病棟看護師にはホームの職員が必ず申し送るようしており、手術の時には家族と待機し、術後の経過も同意の上で一緒に聞くように努めている。今後も、ご利用者の「できること・できそうなこと・認知能力」等のアセスメントを強化し、職員全員でケアプランの共有に努め、リスクマネジメントにも活かしていく予定である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に『自立支援』の視点を追加し、朝の申し送り時、皆で読み合わせ一日をスタートしている。	3つの理念が作られており、3つ目には「地域、ご家族、ご利用者、スタッフそれぞれの交流が深まるよう…」と言う内容があり、毎月のボランティアの方等との交流や地域のサロンに参加している。今後も職員全員で「敬愛の念」を日々の行動に繋げていく予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	いきいきサロンに、ご利用者と参加したり、お話の会や傾聴ボランティアさんも来苑して下さり、交流を楽しまれている。	近所の方とは顔見知りで、収穫された野菜などを頂いている。地元の祭りである「大蛇山」もホームに来て下さり、“お話の会”の方や傾聴ボランティアの方がホームで紙芝居をして下さり、歌を唄って下さる。小中学生との交流もあり、小学生が肩もみをして下さっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を届ける際、お話ししたり、いきいきサロンに参加されている地域の方々への周知に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者と家族、市役所職員、前と現民生委員、ボランティアの方が参加して下さり、情報交換し意見やアドバイスを頂いている。	日々のホームでの暮らしぶりや活動状況を報告している。参加者からも花見情報を教えて頂いたり、地域の実状や課題を情報交換している。自己評価(外部評価)も報告し、「頑張っておられますね」等のお言葉を頂いた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	協議会や関連施設、市の方にホームの広報誌を渡し、取り組み状況を報告している。	管理者が市役所を訪問している。2か月に1回の高田町グループホーム協議会等に市役所の係長等も来て下さり、運営推進会議のご案内を渡している。運営推進会議の時に、家族から市役所の方に質問があり、次回の会議で資料を持参して下さっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在やむをえず、玄関の施錠をしている。来苑者には丁寧に事情を説明している。	他施設の身体拘束や虐待事例の検討をしている。外出願望が強い方は生活歴の把握と共に、対応策の検討が行われ、職員も一緒に散歩をしたり、役割を持って頂き、次第に穏やかにいられる方もおられる。	BPSD行動が強く見られる方もおられ、認知症専門医にも相談している。今後も身体拘束に関する勉強会を行うと共に、記録の残し方等も検討していく予定である。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常日頃、ご利用者の心身状態の変化に、気づくスタッフばかりで、虐待防止には注意を払っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	契約書に、権利擁護に関する内容も入れており、29年1月に『成年後見人制度について』の研修に職員が出席した。	入居時に制度の説明をしており、家族関係を含めて制度の必要性の確認をしている。職員が「成年後見人制度について」の研修を受講し、研修内容は他の職員に回覧しており、情報共有する機会が作られている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時は『重要事項説明書』と『契約書』を説明し、解らない事はいつでも聞いて下さる様声掛けしている。退所の事態が生じた時には、スタッフ、家族、医師の意見を聞いた上で総合的に判断している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	『なのはな通信』やハガキ、写真をお送りし、来苑時には近況等お話して、意見を伺っている。	ご本人と一緒に書いた手紙を家族に送られている。家族の面会時は、近隣の駅まで送迎する事もあり、宿泊が必要な際にも対応しており、面会時や毎月の支払い時に管理者等が要望を伺っている。敬老会の時に家族同士で団欒されたり、家族の意見を伺う機会が作られている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務年数の長い職員が半数おり、「まずは、トライ。」を合言葉に、実践後振り返りをしている。休みの希望時も職員同士協力しあっている。	日々の業務の中で話し合い、申し送りノートで共有している。職員個々の意見を大切にされており、職員が意見を伝えやすい環境作りに努めている。敬老会等の行事の時期も職員の意見で検討したり、職員同士の助け合いもあり、休みの希望も叶えるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設以来4週8休の堅持、年休取得についても、協力し合える組織作りができています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用時は日勤の職員も面接に入り、一緒に検討している。性別年齢等を理由に採用対象から外すことはない。研修は勤務扱いにし、参加してもらっている。	採用時には初任者研修受講者である事と共に、「優しさ」「頑張り屋さん」「真面目そうな方」等を大切に採用している。現在は女性職員のみが勤務しており、職員の特技「歌が上手」「料理が上手」「レクが上手」等を発揮して頂いている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホーム内研修をする予定であったが、できていない。	勤務が長い職員もおられ、ご利用者の意向や要望などを大切にしたい検討が行われている。職員の言動が気になる時は注意しており、今後も会議などで言葉遣いの振り返りを行う予定である。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務調整に努め、研修に余裕をもって参加できるように勤務扱いにし、レベルアップをはかっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと、定期的に定例会を開催しており、連携をはかっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員2人による事前面会を実施し、ホームにも見学に来られるようお勧めし、感情や表情、反応を見させていただいている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	キーパーソンになられるご家族に、何故グループホームを選択されたのか？経緯を聞く中で現在困っている事、入居後に不安や疑問に思う事を相談できる体制作りをしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容や公的介護保険サービス、福祉サービスの利用状況や家庭環境によって、居宅支援事業所や関係諸機関を紹介したり、電話の取次ぎをさせていただいている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとつの地域に根ざした生活共同体としてとらえ、共感の場を大切にして、お互いに認め合う関係性に努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家庭環境や居住地により、ご訪問が限られるご家族の気持ちを第一とし、日々のご本人の暮らしや気持ちのゆれ等を客観的に伝えられるように努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の訪問時は、居室やリビングで歓談される。家族と一緒に帰宅されたり、買い物や、知人を訪問されたりされている。	ご本人が書かれた手紙や絵手紙、日々の写真などを家族や知人にお送りし、喜んで下さっている。地域のサロンに参加し、馴染みの地元の方と交流したり、ご利用者と一緒に市役所、銀行、郵便局、農協等に行かれている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物整理等の協働の場をもうけ、共同作業が苦手な方でも疎外されないよう、保持する能力が活かされるよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、退去先に自然な形で訪問し、関係性の維持をはかっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家事手伝い、入浴、散歩時等、なにげなく発せられた言葉を受け止め、思いを汲み取るよう努めている。	入浴時等に生活歴や信仰等を教えて頂いている。「家に帰りたい」等の願いを叶えたり、家族と一緒に馴染みの場所に行き物に行かれている。馴染みの日課も把握し、ホームの庭の野菜見学の機会も作られている。入居の理解(納得)をされていない方もおられ、寄り添いを続けている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申請時からの聞き取りに始まり、待機期間、ご訪問時、そして入居後の関係性が構築される中で、無理のない形で把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムの把握に努め、日内変動が顕著な方には、その変動を可能な限り把握した上でその時その時の声掛け、関係性のあり方を試行している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画には『自立支援』の視点から、ご本人のできる事、要望、役割を引き出す様努めている。家族の来苑時には、近況報告しアドバイスをいただいている。	毎月のかフェリスや日々の申し送りで情報交換している。日々のケア内容を盛り込むと共に、「生活の質」と言う項目も作り、地域交流や苑内レク、散歩等も計画に盛り込まれている。家族からも「できる事はさせて欲しい」と言う希望を頂き、食器拭きや縫い物(雑巾)をして頂いている。	今後も職員全員で「ご本人の能力(できること・できそうなこと・認知能力)」を丁寧に把握し、夜間の転倒の原因対策のためのアセスメントを強化すると共に、ケアの統一のためにも、職員全員でケアプランを共有する予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを基本として、日課生活記録並びに食事、水分、排泄、バイタル、体重変化等の身体状況記録を、いつでも職員が見れるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の家族が面会に来られる際、近隣の駅まで送迎を行ったり、宿泊が必要な際には、その支援を行えるようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、ボランティア、地域の方々が気軽に立ち寄られ、小学生、中学生の訪問もあり、関係性の強化、維持に努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と看護師とは、相談しやすい関係であり、毎週の往診をご利用者も楽しみにされている。看護師は勤務していないが、介護職員の観察力が鋭く、早期発見に繋げる事ができ、緊急時の対応も機敏にできている。	協力医療機関とは24時間体制で連絡が取れる。毎週の往診結果や職員が受診介助をした時を含め、家族と共有できている。認知症専門医の受診は家族も同席しており、医師の説明と一緒に聞かされている。行動障害も医師に相談し、薬の調整等をして下さっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様全員が、かかりつけ医との契約をされており、週1回の往診、健康管理、心身の状態変化に応じた支援体制で速やかに組めるようになっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病室にいられるまでどのような時間帯でも付き添い、病棟看護師には当ホームの職員が必ず申し送るようにしている。手術の時にはご家族と待機し、術後の経過も同意の上で一緒に聞くように努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームの方針を説明している。協力医療機関が病院と施設を持っており、必要に応じて紹介していただいている。体調が変化した時は随時主治医に相談し、家族と一緒に今後の事を相談している。	「重度化された時は提携特別養護老人ホームにお願いしており、終末期は協力医療機関にお願いしている」事を入居時に説明している。ご利用者の体調変化に職員は敏感に気づき、随時主治医に相談し、家族と一緒に今後の相談をしている。重度化しないように“自分の足で歩く”事を大切にしており、散歩やレクなども続けている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	『応急手当と事故発生時の対応の仕方』の書をいつでもスタッフが見れるよう、ボード横に下げている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーを設置している。2年に1回は消防署や地域の方々が訓練に参加して下さり、アドバイスを受けている。自主訓練で夜間想定訓練もしており、災害に備えて備品や食料を準備し、漏電対策のチェックも毎月続けている。	29年3月に消防署と訓練し、アドバイスを頂いた。家族と地域の方も参加して下さり、消火体験をして下さった。自主訓練で夜間想定訓練も行われ、災害に備えて備品(懐中電灯、ランタン、卓上ガス台、ポンベ)や食料、飲料水等を準備している。災害時は隣家の社長宅に避難予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬愛の念を持ちという理念を毎朝唱和し、ご利用者同士のトラブルが見られた時は職員が間に入り、言葉づかいにも配慮している。	守秘義務に配慮すると共に、ご利用者の家族関係に立ち入り過ぎないように注意したり、ご利用者の情報を外で漏洩しないように伝えている。「みんな仲良く、家族的に」と言う思いを大切にされており、必要に応じて職員の言動を注意している。	ご利用者への言動が時に強くなったり、指示口調になる時がある。職員が自分の言動を冷静に振り返る方法を考えると共に、研修も行う予定である。トイレのドアを閉める等、羞恥心への配慮も強化する予定である。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に考えて頂く等の待ちの介護を重視し、ゆったりとした関わりを待つ中、意思表示の場面が少しでも多く出るように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく利用者本人の意思を尊重して、希望に添って臨機応変に対応するようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みを把握されたご家族の支援を得て、おしゃれが維持されるよう努めている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	3食とも職員が料理し、魚と肉は交互、栄養バランスも配慮している。食欲旺盛な方が多く、職員も一緒に食べている。	ご利用者に食べたい物を確認している。旬の食材を使用し、野菜も豊富に使われている。ご利用者もフキの皮むき、もやしの根摘み、豆そろえ、味見等と共に、下膳や食器洗い、食器拭き等をして下さる。混ぜご飯やグラタンも好評で、食欲旺盛な方が多い。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の食事量、水分摂取量を記録しており、嗜好品は家族が持参されたり、一緒に買いに行かれたりされている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをし、一部介助している。義歯は就寝前に必ず洗浄剤による管理を支援している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を大切にしており、全員の排泄パターンを把握し、個別記録に残している。夜間はポータブルを利用する方が多い。	排泄が自立されている方もおられ、布の下着を着用する方もおられる。排泄パターンを把握し、パットの必要性や大きさを個別に検討し、必要に応じてトイレ誘導している。夜間はポータブルを利用する方もおられ、転倒対策に向けた原因分析を深めていく予定である。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の排泄チェック表で排泄状況を把握し、早めに冷たい牛乳等を飲んでもらいながら、自然な形で排泄されるよう努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂は毎日沸かしている。拒否が見られる方には無理強いせず、声掛けの工夫をしている。	3方向から入浴できる浴槽で、お風呂場も広く、滑らないように配慮している。拒否が見られる方には無理強いせず、声かけの工夫をしている。入浴時は昔話に花が咲き、柚子や菖蒲、夏ミカンの皮などを湯船に浮かべて楽しませている。できる所は洗って頂いている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調が悪そうに、ソファで傾眠されている方に、居室での昼寝を声掛けし休んで頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテに、薬状はすぐ見れるようファイルしており、理解できるようにしている。また、往診時や電話でもドクターやナースに質問している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者と一緒に体操をしたり、歌を唄ったり、塗り絵や貼り絵等をしている。また、散歩やドライブにお連れし、気分転換を図っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、テラスで日光浴したり、散歩されている。管理者と一緒に、市役所や銀行等にもお連れしている。	リビングから小学生に手を振られている。季節に応じた花見(桜、藤、薔薇、秋桜)や鯉のぼり見学を楽しまれたり、職員と買い物に行き、アイスクリームを食べられている。散歩の時に地蔵さんにお手を合わせる方もおられ、家族と買い物に行かれたり、自宅に帰られる方もおられる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はお断りしているが、強制ではなくご家族に自己管理して頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、事前にご家族の了解を得たうえで、希望者には事務所の電話を使用してもらっている。絵葉書等を家族や知人の方にお送りし、喜ばれている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから畑や木々の緑が見え、行き交う車や登下校する小学生等を眺める事ができる。ご利用者の関係性も把握し、座席の配慮を続けている。	台所と事務所の周囲に各居室がある。職員の立ち位置によっては見えない場所もあり、夜勤時も物音等の気配りを行っている。温湿度計も設置し、適宜温湿度調整を行い、冬は加湿器等を活用している。カレンダーを毎月作成し、月日の確認、行事の確認等をされている。ご利用者の関係性等に配慮し、座席の工夫を続けている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の心の在り様に応じて、自分の場がみつかるようにソファ、テーブルを配置し、ロビーからはオープンテラスそして庭に出られるようにしており、自らの居場所を選択できるように配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具、ぬいぐるみ、家族との写真等持ち込まれており、ご自分の部屋になっている。	入居時には、なるべく使用されている物を持参頂くようお願いしている。タンス、テレビ、洋服、アルバム等と共に、ご自分で作られたカレンダー等も飾られている。小学生からの手紙を貼っている方もおられる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所要所に手すりを配置し、サポート出来るようにしているが、基本的には過剰な介助とならないように注意し、人的対応による生活支援をその基本としている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				